

えぐび通信

令和八年二月号（第九十一号）

恵久美を元気にする会

090-3184-4467



カラー版は

こちら

第53回えひめこども美術展

上岡愛侑さん（岡田中1年）特選受賞



文字が上手だと何が変わるのでしょか。実はその力は、見た目以上に大きいと言われています。

（上沖東）が、書写部門（硬筆）で特選を受賞されました。愛侑さんは「がんばって練習してきたことを認めてもらえたことが、いちばんうれしかったです。努力すれば希望は叶うと感じました。応援してくれた家族や、担任の先生からのお祝いの言葉にも感謝しています」と笑顔で話してくれました。

丁寧な文字には、誠実さや落ち着き、思いやりを自然に伝える力があります。初対面でも、字ひとつで信頼感が生まれることがあります。

恵久美コミニュニティにも、そんな「文字の力」を身につけようと日々努力を重ねている恵久美つ子がいます。

このほど、第53回えひ

めこども美術展（愛媛県

教育委員会、愛媛新聞社など主催）において、岡田中

学校1年生の上岡愛侑さん

を見たよ」「字がきれいだね」

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつゝ、よろづのことくに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なら一筋あります。

上岡 愛侑

松前・岡田中1年

と声をかけられたそうです。文字を書くうえで大切にしていることは、「何度も書き直さず、一字一字に集中して書きないこと」。一字をおろそかにしない姿勢が、今回の受賞につながったのでしょうか。小学生から習字教室に通い、高学年になるころには「乱れた心は乱れた字に、澄んだ心は澄んだ字になる。字を書くことは自分で書く絵」という言葉を、練習を通して実感したといいます。お兄さん一人も習字八段の上級者で、その影響も大きかつたようです。将来は「自分も八段取得を目指に頑張りたい」と力強く語つてくれました。

丁寧な文字には、誠実さや落ち着き、思いやりを自然に伝える力があります。初対面でも、字ひとつで信頼感が生まれることがあります。

タイプ重視の時代だからこそ、少し立ち止まり、余白の時間にマウスをペンに持ち替えてみる——そんな価値を、愛侑さんの姿が教えてくれています。

（山本正司）

いつも町内の活動への温かいご理解、本当にありがとうございます。

私たちの町を「もっと優しくて、もっと強い」場所にすることを、要するに「いやとい

う時、誰が誰をサポートするか、あらかじめ決めておく地図のことです。

いつも町内の活動への温かいご理解、本当にありがとうございます。

「進捗率 愛媛県内で20%程度 内子町はほぼ100% 松前町はまだ10%未満？」

助けて欲しい人の声を
助けられる人に届けたい
「個別避難計画」 恵久美自主防災会



実は今年の恵久美自主防災会には、大きな目標があります。まずは「7件」の計画を完成させること。そして来年も「7件」作り、いま支援を必要としている14名の皆さんのが計画をすべて完了させ100%を目標したいと意気込んでいます。

「えつ、まだできていないうやく2件が

実は今年の恵久美自主防災会には、大きな目標があります。まずは「7件」の計画を完成させること。そして来年も「7件」作り、いま支援を必要としている14名の皆さんのが計画をすべて完

了させ100%を目標したいと意気込んでいます。

「えつ、まだできていないうやく2件が

完了したところなんです。この2件は、特別なケアが必要な方々でした。福祉の専門家とも相談しながら、「どうすれば安全に福祉避難所まで移動できるか」を考え、ようやく形になりました。ハードルの高いケースでしたが、この経験が私たちの大きな自信になっています。ただ災害は明日くるかも知れません。災害が来る前には計画を作らねば意味がありません。

さて、ここからが本番です！

これから計画を作る14名の皆さんには、主に「足腰が少し不安な高齢者の方」です。避難先もいつもの指定避難所。これまでのケースよりは少しスマーズに進められるはずです。そこで、恵久美の皆さんにお願いがあります。「お隣さんやご近所の方の『支援者』になつてくれませんか？」と声をかけられたら、ぜひ前向きに考えてみてほしいのです。一人の要支援者に対しても、二人の支援者。この「2人体制」がポイントです。「自分で背負わなきゃ」と思つ

と荷が重いですが、一人いれば相談もできるし、どちらかが不在でも安心です。特別な技術はいりません。「一緒に避難所まで歩こう」「車椅子を押そう」という、その優しい気持ちが命を救います。

最近、悲しい言葉を耳にすることがあります。

「避難所で物資をあげたり、何かしてあげると、周りから『あれもして、これもして』と要求（クレクレ）されるから、目立たない方がいい」なんていう話です。でも、想像してみてください。みんなが「誰かが何かしてくれるのを待つだけ（クレクレ）」になつて、助けの手を隠し合つてしまつて、寂しいと思いませんか？

私は恵久美は、そんな町にはしたくない。誰かに頼りきりになるのではなく、「自分にできる備えは自分です。その上で、どうしても足りないところをみんなで補い合つ。そんな、誇らしい町であります。そんないたいと思うのです。「助けて」と言える勇気と、「い

いよ」と答える優しさ。その両方がある町なら、どんな災害が来ても、私たちはきっと立ち上がれます。

まずはこの「個別避難計画」を、一つひとつ丁寧に作つていきます。

Q2：もし自分が留守の時に災害が起きたら…責任を感じます。

A：責任は問われません。「で

きる範囲で」が鉄則です！

愛媛県内の先行自治体（松山市など）でも、「支援者は善意の協力者であり、法的な責任は負わない」ことが大前提です。自分が避難するのではなくて備えて、みんなで助かる。そんな恵久美を、一緒に作つてていきましょう！

個別避難計画・
よくある質問【Q&A】

Q1：支援者って、具体的に何をすればいいの？

A…特別なことはしなくてOK！「声かけ」と「一緒に歩くこと」がメインです。

例えは、地震や大雨の時に避難が始まつたよ、一緒に行こう！」と声をかけ、指定の岡田中学校（水害時は北伊予小学校）まで安全に移動するお手伝いをお願いします。

Q2：避難所で「クレクレ」と言われないか心配…。

A…恵久美は「お互い様」の精神で備えましょう！

Q3：避難所で「助けてもうつ側」の方も、精神で備えましょう！

春をため込む

河津桜



満開の日も、すぐそこです。
(山本正司)
(詠み人不詳)

春待つ桜蓄

無理をする必要はありません。立春も過ぎ、暦の上では春。冷たい風の中でも、植物たちは確かに季節の移ろいを感じ取つてゐるようです。郷田収志さん宅（町田西）の早咲きの河津桜も、固く閉じていた蕾をふくらませ、開花の時を静かに待つてゐます。厳寒の季節をじつと耐え、やがて花を咲かせるその姿は、私たちに希望を届けてくれます。蕾張り

春をため込む

河津桜

（詠み人不詳）

（山本正司）